

# 学校だより



川西市立多田小学校

7月号 令和元年7月1日

学校HP：<http://www.kawanishi-hyg.ed.jp/tadapo/>

7月は一学期のまとめの月です。個人懇談も今日から始まります。いい締めくくりをして夏休みを迎えましょう。

## ◎心のとびら

『小学校 心のとびらを開く月曜講話』青木靖著／[学事出版](#)を読んで共感しましたので、今回は、そのお話を紹介させていただきます。

「みなさんは心にとびらがあることを知っていますか。どんな人にも心にとびらがあるのですよ。しかもそのとびらには、とってががついていないのです。外から開けようとしても絶対に開かないとびらなんです。だから一度閉ざされると、外からどんな強い力で開けようとしても開かないのです。



たたいても怒鳴っても絶対にだめなのです。

人はどんなとき、固く心のとびらを閉ざしてしまうのでしょうか。それはお友達からいじめられたり、仲間はずれにされたりして、人が信じられなくなったときではないでしょうか。では、どうしたら心のとびらは開くのでしょうか。実は心のとびらは内側から開くようになっているのです。心のとびらが内側から開く様子は、ちょうどお日さまの暖かさにお花が咲くのに似ています。

心のとびらを閉ざしてしまったお友達には、お日さまの暖かさが必要なのです。では、お日さまの暖かさってなんでしょう。

そういえば、みなさんはインソップ物語の『北風と太陽』のお話を知っていますね。「北風と太陽が話をしています。『下を歩いている少年のマントをどっちが脱がせることができるか競い合おう』。どちらも自信満々です。始めに北風が試みます。北風は強風を巻き起こし、マントをはぎ取ろうとします。しかし、少年はマントをしっかり押さえて放しません。次に太陽が暖かい日差しを少年に注ぎます。少年はポカポカ暖かくなってきたのでマントを脱ぎ、太陽が勝った」というお話です。



人の心のとびらを開くのは、このお話に似ています。お日さまのような暖かさとはお友達の思いやり、やさしい言葉ではないでしょうか。心のとびらを閉じたままでは、お友達もできませんし楽しい生活もできません。けっして幸せにはなれないと思います。

あなたの心はあなただけの宝物ですが、それはお友達や先生、おうちの人の

温かい心、やさしい言葉に触れたとき、初めてとびらが開き、宝物のように輝くのです。」

この話のように、温かい心、やさしい言葉が太陽のようにふりそそぐ子どもたちであってほしいと心から願っています。

## 夏こそ体験を！

今月 20 日から子どもたちが楽しみにしている長い夏休みがはじまります。卒業生に小学校で一番心に残っているものは何かと尋ねると、多くの子どもが修学旅行や自然学校をあげます。子どもたちは自然体験や体験的活動を通して自然の美しさを発見したり、自信や満足感をあじわったりします。夏休みは時間が取れますので、自然体験や体験活動を行う絶好の機会です。

田舎に行く、旅行をするといった遠くへ行く事ばかりでなく、**ものを作る、課題について調べる、料理をする、動植物を育てる、遊ぶ**など、日常の中でもいろいろな体験ができます。その課題を解決するため、試行錯誤しながら追及し、課題解決を図っていく過程で、子どもは考える力、判断力、学び方を身につけることができます。さらに、解決の過程で驚いたり、知的好奇心を高めたり、解決できた成就感を味わったりすることでしょう。このように様々な体験を重ねていくことは、「生きる力」を育むことになります。

日ごろ、子どもとの時間がなかなかとれないというご家庭でも、夏休みには一緒に過ごす時間も増えてくると思います。子どもと一緒に体験し団欒を深めていただければと思います。

## あゆの放流

6月11日(火) 3年生は環境体験学習であゆの稚魚の放流をしました。1時間目は、すずかけホールで昔の猪名川の様子や猪名川に生息する魚などについて学習しました。2時間目からは、こんにやく橋に行ってあゆの稚魚の放流をして、河川敷のゴミ拾いをしました。ご協力頂いた漁業組合や地域、保護者の方々、ありがとうございました。

## きんたくん学びの道場

「きんたくん学びの道場」とは『放課後』という時間に『学校』という場において『友だち』とのかかわりを大切にしながら、**家庭学習の習慣化及び基礎基本の定着**を図ることを目的としています。5年生以上の希望者を対象に行っています。子どもたちは水曜日と金曜日の放課後、学習室に立ち寄り、その日の宿題や課題プリント、自主学習などに取り組んでいます。



※日々の学校生活についても、ホームページで紹介しています。ご覧ください。